

令和2年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和2年8月18日作成

校長 芦澤 秀幸

記述者 教頭 浅利 進

学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中学生の育成」

- ・強い体と心をつくる（心身の調和的発達）
- ・すなおに見聞きし、考えて行動する（素直さ、考え意見を持つ力、実践力）
- ・美しいものを愛し、自分で創りだすよろこびを知る（本物・本質志向、創造力）
- ・働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく（貢献、協働、努力、粘り強さ）

取組重点

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる資質・能力と態度の育成を図る。また、そのための授業改善に努める
- 2 道徳教育の充実を図り、思いやりと感謝の心を持ってともによりよく生きようとする人間性豊かな生徒の育成に努める。
- 3 生徒会活動における「4つのこだわり（あいさつ・清掃・服装・時間）」の取組を通し、こだわりの理由・意義を考えながら自主的・自治的な活動のできる生徒の育成に努める。
- 4 一人一人が安全で安心な学校生活を送ることができるよう、施設・設備をはじめ生徒を取り巻く教育環境の充実に努める。
- 5 十五の春を見据え一貫性のある教育活動を目指した小中学校の連携を推進するとともに、家庭・地域との連携をより深め、みんなでよりよい生徒の育成に努める。

I 全体評価

※A：5点，B：4点，C：2点，D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。なお、生徒アンケートについては平均4.0を目標とした。

全21項目（小項目3を含む）中16項目が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

4.5以上：16項目，4.4以上4.5未満：3項目，4.2以上4.3未満：1項目

4.0以下：1項目

総合的な平均が4.5以上を得たことは、教職員の各々の実践が高い水準を保っていると評価しているということがいえる。ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、学習期間の短縮や、普段の教育活動がこれまでのようなやり方とは違うことで、昨年度の同時期と比べると、やや低い評価となっている項目も見られる。特に、「特別活動」の指導において、「㊸あなたは合唱を文化活動の軸として適切に取り組んでいる。」の項目については、教職員それぞれの捉え方もあるが、現在も合唱の取組については制限があるため、評価できる水準にまで達しえない部分がある。ただし、本校では伝統ある活動なので、今後の状況をみながらできるだけ行っていきたいと考えている。同様に、授業に関する「新指導要領に向けた取組」「校内研で目指す授業づくり」についてもこれまでの取組がうまく生かされないことで、評価が目標の水準に達していないと考えられる。今後も感染症拡大防止対策により変更される内容もあるが、2学期以降の教育活動への改善を意識した取り組みを、組織的に進めていく必要がある。特に生徒の学習への不安を解消し、新学習指導要領に向けて指導の充実を図っていきたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇領域平均は4.6であり、教職員は互いの協力体制のもと、学校教育目標の具現化に努力しているといえる。 ◇職務上の報告、連絡、相談、確認を行い、職場相互の信頼関係も概ね良好である。 ◇校務分掌や各種委員会等の組織の検討を積極的に行った。 ◇「新指導要領への取組」については平均4.4で、今年度項目に取り入れたが、感染症拡大防止対策への取組もあり、1学期が短いこともあってやや目標数値を下回った。 ◇「学習意欲と学力の向上への取組」については、感染症予防対策による授業の遅れも含め、学力を向上させようとする教職員の意識が高まっていることが見てとれる。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが学校経営方針（教育重点目標）を十分に理解し、前年度の成果と課題にもとづいた教育活動を生徒の実態に応じて相互に連携しながら推進していく。 ・学校全体の教育活動に対して、組織的に取り組めるように細部に対しても状況を共有し、共通理解の中で検討・改善を行っていく。 ・各自がライフワークバランスを意識し、勤務効率を考えた働き方について意識を高める。また、管理職が教職員のメンタルヘルスについて細心の注意を払うよう心がける。また、同僚性・協働性を意識した職場の雰囲気醸成する。
2 教科指導	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇教師アンケート⑤「あなたは基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」は昨年度同時期よりも0.2ポイント下がった。学力を向上させようという意識はあるが、限られた時間の中での授業改善の難しさが表れていると考えられる。同様に、生徒アンケートの授業の領域の評価は、いずれもこれまでよりもやや低下している。 ◇全国学力・学習状況調査や学力把握調査の結果分析を行い、校内研究会において共通理解を図ることができた。 ◇教師アンケート⑦「あなたは学習の定着を図るため、計画的な家庭学習の手立てを行っている」においては、昨年度よりも0.2ポイント上がっている。今年度より校内研究として始めた家庭学習の週末課題の取組を行うことにより、教員も生徒も家庭学習を画一化でき、取り組みやすくなったと考えられる。生徒アンケート⑩「タイアップ・チャレンジにきちんと取り組んでいますか」は肯定的回答が95%を超え、⑪「宿題の他にも家庭学習をしていますか」のポイントも上がっている。課題の確認等に時間がかかるなど検討していく余地はあるが、家庭での学習習慣の構築への成果は見られる。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問の工夫や生徒の表現方法、考えのシェア等、「新しい生活様式」を踏まえた授業を構築しつつあるが、今後の状況の変化に対応できるよう、常に授業の改善・工夫について意欲をもって研究していく。 ・今年度は他校の教員との交流の場は少ないと考え、通信方法を工夫しできるだけ状況の変化による授業の工夫等の交流を行うようにする。 ・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。 ・一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、必要に応じて同僚の授業を参観し、自分の授業にいかすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。 ・教育環境整備に努め、ICT活用を積極的に行う。今後、「オンライン授業」が行われることも意識しておく。 ・校内研究として行っている、「タイアップ・チャレンジ」を継続し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。 ・生徒の連絡帳（やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇平均得点は4.7で昨年度よりやや低いものの、指標の4.5を上回った。⑧「あなたは問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決に努めている」の項目の評価は、各担任・学年・生徒指導等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。新型コロナウイルス防止対策への対応も含めて、昨年度よりも取り組み内容が多いこともあるが、本校の「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していくようにする。</p> <p>◇生徒アンケート ③「困ったときに相談できる人がいますか。」についての結果は、全体的には4.3で、昨年度の同時期よりも0.1ポイント下回った。1学期の日数も少なく、十分学級や学年、部活動での協同的な時間が少ないことも原因の一つと考えられる。</p> <p>◇不登校等のケース会議を関係機関と連携して定期的に行い、生徒・保護者の願いを丁寧に聴き取るよう心がけた。</p> <p>◇大きな問題につながる生徒指導がなく、未然防止の取り組みができた。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の臨時休業中や1学期の精神面についてその行動から分析し、今後も教職員が相互に連携し、学校としてのきまりや指導重点について教職員が共通理解し、生徒の指導を行う。 ・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、心の教育を充実させたい。 ・小学生時期からの人間関係についても引き続き見取り、その関係改善や他の生徒との係わりを大切にする。生徒の連絡帳の記述や、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制は整え、さらに生徒とのコミュニケーションをとっていくようにする。
4 特別活動	
達成状況	<p>◇教員のアンケート結果は⑩「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」が目標とした4.5となり、昨年を上回った。しかし、今回は生徒アンケートの⑦～⑨の特別活動の評価はいずれも昨年を下回り、今年度の生徒活動が制限され、生徒の気持ちにも影響があったことが示されている。</p> <p>◇今年度は合唱や部活動等も時間的にも内容的にも制限され、これまでの活動内容との比較もあり、評価は下がったが、肯定的回答は90%を超え、特別活動についての意欲が高いことがわかる。</p> <p>◇「合唱活動」は授業以外にほとんど行えず評価も低いですが、高学年になるにしたがって評価は高くなり、昨年度までの取組の成果が表れていることが見て取れる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の行事は少なかったが、数少ない行事を生徒が自主的に行うことができ、全校的な自主性の育成に成果が上がったといえる。今後も感染症防止対策を行う中で、日常的な生徒活動を大切にしていきたい。 ・2学期の最大行事である学園祭（桃響祭）も縮小傾向で、それ以外の行事についても変更せざるを得ない状況だが、生徒が主体的に取り組むことができる場面も多い。生徒一人ひとりの参画意識を高め、意欲や積極性を向上させる絶好の機会として、生徒の主体性を引き出す取組を計画的に工夫していきたい。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本となるような取組としたい。 ・スタートは遅かったが、夏季休業中に県総体も行われ、3年生も一定の結果を得た。これまで同様毎週月曜日を「部活動なしの日」とするとともに、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」とし、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していく。

5 健康安全 信頼される学校	
達成状況	<p>◇平均得点は4.6で目標数値を超えている。「生徒の健康安全」や「新型コロナウイルス感染症防止対策への取組」については非常に意識が高く、生徒への指導も丁寧に行っていることがわかる。ただ、校舎の設備の整備についてはやや意識が及ばず、健康安全の領域では最も低い結果となった。</p> <p>◇新型コロナウイルス感染症防止対策に対する生徒への指導は丁寧に行うことはもちろん、熱中症対策や通学路の安全確保、登下校指導等きめ細かく指導を行った。</p> <p>◇不審者情報や非常変災に備えて学校安心メールに全家庭に登録していただいた。臨時休業中も含め、今年度は教育委員会の指導も含め、メールやホームページの活用をし、家庭に状況を素早く伝え、不安や不明な状況が無いよう努めた。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を迅速に提供できるよう心がけていきたい。</p> <p>◇「信頼される学校」の領域はすべての領域の中でも最も高い評価となった。全教職員が生徒に寄り添い、きめ細やかな指導を行うよう心掛けていることがわかる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行ってきているので、さらに注意深く取り組みたい。 ・「新型コロナウイルス感染症」から身を守り、生徒への教育活動を充実させていくという、難しい状況の中で、互いに協力・理解し合い指導を進めていく。生徒が体調不良を訴えた際の対応方針の確認等は危機管理上大変重要であることを認識する。 ・リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。 ・部活動の指導について、様々な場面を想定し安全対策を検討していく。 ・「学年便り」「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、それらを通して家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。